

「すぐには、目から始まる」①

目は心の窓と言われる。

物音に驚いて慌てて水面から飛び立った水鳥を、その女性の瞳から見出したのは、日本浪漫派の作家、太宰治だ。

目は人間の心を映し出す鏡とも言われている。目を見ることで私たちは、相手の心を知らず知らず読もうとし、外観を判断しようとしているのではないか。

「一瞥」というのは、文字通り一瞬にして他者を峻別する無意識の能力である。翻って、自分のことを考えてみてほしい。迷いが生じたときやひらめきを感じたとき、目が動くのを経験したはずだ。その、目。

人相学でも、目は特に重要なポイント

トになっている。

「三眼六神の法」

「眼幅十二相の秘伝」

人相学に伝わる奥義である。

そもそも、人相学も含めて、観相学と言われているものは、過去の先人達の経験則をもとにして作られたものだが、一つのパートだけで判断することはほとんどやらない。正確を期するためにも複数の項目で総合的に判断する。

形状から見た目の判別

さて、前置きが長くなってしまった。目の判別方法である。

まず形状から入ることにしようか。

●大きな目と小さな目——大きな目は、どう判断すればいいか。

「積極的で行動派」。つまり、性格が明るくて雄弁なので社交家。その反面集中力に欠け、飽きっぽい点があるがかりと言えらるだろう。

では、小さな目はどうかだろうか？

「控え目で内向的」。性格が地味で、感情表現も下手。ところが根気があり沈着冷静。

●丸い目と細い目——次に丸い目と細い目の違いはどうか。感受性が強く、他人の目には二重人格と映ることもあるのが、丸い目の特徴。おおらかな性格だと考えがちだが、大間違い。執着心が強く貪欲な一面もある。

細い目の人は、慎重で思慮深く、洞察力がある。周囲の目には多分、「頼りがいがある人物」と映るはずだ。秘密の保持が要求される経理関係の部署や開発関連の部署には最適と言えるだろう。ただ、一步間違えると、「オタク」や「マニア」の道にはまりこんだりする可能性も無きにしもあらず。

ツキの達人

顔相学入門

①